



校長室の窓

令和7年6月25日
学校だより第3号より

本校では、地域に約200年前から伝わる「早稲谷鹿踊」の継承活動に全校で取り組んでいます。業前の時間を活用して1～6年生と一緒に練習していますが、その際は教師が主導するのではなく、高学年がリーダーシップを発揮し、下級生に指示を出します。児童自身が練習の進行を担うために、時には行き詰まることもあります。助言を受けながら前向きに改善しようと努力する中で、子供たちは大きく成長しています。

夜間に行われる親子鹿踊教室の練習にも希望する上学年児童が参加し、鹿踊保存会の方々から直接指導を受けます。6月17日の開講式では、「下級生の手本になりたい」といった自らを律する目標を一人一人が発表していました。その真剣なまなざしと凜とした姿勢に、私はとても感心すると同時に、子供たち一人一人の「成長したい」という思いの強さを感じました。

また、6月5日の市内体育祭には5・6年生が代表として参加しました。練習は全学年で取り組み、上級生の頑張る姿に憧れて下級生も懸命に取り組む姿が見られました。大会当日、本校児童は全力で競技に挑みました。印象的だったのは、子供たち同士の応援や励ましの姿です。自分事として出走する友達を大声で応援し、緊張する友達に「招集所まで一緒に行くよ」と声を掛け、入賞すれば皆で喜び、負ければ悔しがる…。その素直でまっすぐな姿に、月立小の子供たちの心豊かであたたかい成長を感じました。

こうした活動を通して育まれる子供たちの力は、文部科学省が掲げる「生きる力」の育成にもつながっています。主体的に取り組み、仲間と支え合いながら課題に挑戦する姿勢は、これからの社会をたくましく生き抜く力の基礎となるものです。地域・保護者と学校が連携し、子供たちの成長を見守る環境こそが、本校の教育の大きな強みです。